

派遣先所属 岩手県総務部総合防災室 氏名 村田 圭一

派遣期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

総合防災室における私の担当業務は、24時間危機管理体制、災害時の協定書の締結、自主防災組織及び国民保護に関することなどです。担当業務は、直接復興に関するものではなく、ほとんどが通常の防災業務の支援です。

被害が大きかった沿岸地域では震災関係の業務量が膨大であるため、現在多くの岩手県職員の方々が沿岸の部署へ配属され、また沿岸の市町村へ派遣されております。こうしたことから私のように他県からの派遣職員を、県庁内の通常業務に充てているようです。

24時間危機管理体制についてですが、勤務時間内に地震の発生や気象警報の発表があると、災害警戒体制が敷かれ被害情報の収集等を行います。また、勤務時間外は、総務部の一般職員及び他部局を含めた管理職員が毎日交代で夜勤を行い、災害警戒体制に備えております。私も、月に1回は職場に泊っています。

北海道の次に広大な面積を持ち、海あり山ありの岩手県は、地形や気候も変化に富んでおり、気象警報の発表には細心の注意が払われております。8月31日には、フィリピン付近において発生した地震に伴い岩手県をはじめ太平洋沿岸に津波注意報が発表されました。幸いにも被害はありませんでしたが、津波ということで、緊張感が高まりました。

自主防災組織については、その育成強化が全国的な課題となっております。東日本大震災では、発災直後から長期にわたる避難所生活において、被災地の方々が力を合わせてきました。

こうしたことから、岩手県でも自主防災組織未結成地域における組織化と既存組織の活性化に取り組んでおります。今年の5月から7月にかけては、岩手県の自主防災組織について現状を知るため、各市町村役場を訪問させていただきました。市町村職員の方に、直接お話を伺う大変貴重な機会となりました。今後は、研修会等の開催により自主防災組織の育成強化を図っていくことになっておりますが、被災した沿岸市町村では、新しい街づくりが最優先課題となっているため、復興状況を見極めながら進めていくこととなります。

このほか、一関市の栗駒山へ火山調査に同行させていただいたり、9月1日に釜石市で行われた総合防災訓練の対応など大変貴重な経験をさせていただいております。

【栗駒山 昭和湖 岩手県 一関市】



2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

いうまでもありませんが、沿岸被災地では、いまだにガレキが山積みの状況です。津波で浸水した地域に、いつになったら新しい街が出来上がるのか想像するのは困難です。写真の大槌町は、津波により町の中心市街地が壊滅いたしました。このような状況で、様々な立場の人たちの意見を集約し、災害に強い安全な街づくりを実現させるのは本当に難しい課題なのだと思います。

【岩手県 大槌町にて】

